

幼稚園・小学校低学年

※「人権教育の指導方法等の在り方〔第三次とりまとめ〕では、小学校第1学年～第3学年を「小学校低学年」としており、本資料もそれに準じています。

① 絵本に親しむ～中学生による読み聞かせ～

- ★児童生徒の発達段階を踏まえた指導方法の工夫
【実践編】事例26：幼児期における取組
【指導等の在り方編】P30～31

② じぶんのすきなところ

- ★児童生徒の発達段階を踏まえた指導方法の工夫
【実践編】事例27：小学校低学年における取組
【指導等の在り方編】P30～31

③ 特別支援学校の友だちと仲良くなろう

- ★家庭・地域、関係機関との連携及び校種間の連携
(校種間の連携の取組)
【実践編】事例9：特別支援学校との交流の取組
【指導等の在り方編】P19～21

絵本に親しむ～中学生による読み聞かせ～

1 題材について

幼児期は、遊びを中心とする生活の場で、自分を大切にできる感情とともに、他の人のことを思いやれるような社会的共感能力の基礎を育むという視点が必要である。

近年、家庭や地域においても人間関係が希薄化し、子どもたちの人とかかわる力が弱まってきている。そのような状況の中で幼稚園において、地域の人たちとのかかわりを通して、人間は周囲の人たちとかかわり合い、支え合って生きていることを実感させることが大切である。

また、絵本や物語などを読み聞かせることは、様々なことを想像する楽しみと出会うことになり、感動したり、悲しみや悔しさなど様々な気持ちに触れ他人の痛みや思いを知ったりする機会ともなる。

本題材では、幼児にとって地域の身近な存在である中学生といっしょに「絵本に親しむ」活動を通じて、絵本や物語の世界に浸る体験をもたせるとともに、人と人との温もりのある言葉のやりとりの心地よさに気づき、「伝え合う力」、「相手を思いやってかかわる力」、「社会的共感能力」などの基礎を培う。

2 主な題材のねらい

◇読み聞かせを通して、友だちと絵本や物語の面白さを感じたり、中学生に感謝の気持ちを伝えたりすることで、人とかかわりあうことの心地よさを味わえるようにする。

◆中学生の気持ちを考えて、一緒に本を読んだり、遊んだりすることができる。
＜社会的共感能力の基礎づくり＞

3 指導のポイント

○中学生が読み聞かせに来ることを事前に知らせ、親しみをもって迎え入れるような雰囲気づくりをする。

○幼児が中学生にかかわることができるように援助するとともに、中学生へも幼児とのコミュニケーションを図ることができるよう働きかける。

○活動が終わったらお礼の言葉を伝えさせ、感謝の気持ちをもたせるとともに、人とかかわることの楽しさや心地よさに気付くことができるようにする。

○園便りや懇談会を通じて、読み聞かせの大切さを知らせ、家庭でも絵本に触れる時間が持てるように促していく。

4 学習の概要

※ → 「6 展開例」で示した学習

幼児の活動	指導上の留意点
<p>日常の活動</p> <p>○絵本を見たり、読んでもらったりする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児の絵本に対する興味や関心の違いに配慮しながら、絵本に親しめる環境を用意する。
<p>活動内容 (45分程度)</p> <p>1 中学生とあいさつを交わし、簡単なゲームを通して交流する。</p> <p>2 中学生による絵本の読み聞かせを聞く。</p> <p>3 中学生とのふれあいを楽しむ。</p> <p>4 お礼の言葉を伝える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一人一人の様子を見ながら、その子どもに応じたかかわり方ができるように援助する。 ・ 自分たちのために中学生が絵本や物語を読んでくれていることを知らせ、どのような態度で話を聞いたらよいのか考えさせていく。 ・ 中学生のやさしさや親切さに気付かせ、感謝の気持ちを持たせていく。 ・ 園児が、感謝の気持ちを伝えることができるよう援助する。
<p>事後の活動</p> <p>○自分で本を選び、身近な人に読んでもらう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児が選んだ本を貸し出し、家庭に持ち帰って保護者や家族に読んでもらうことで、家庭における読み聞かせの契機になるようにする。

5 準備


- 中学校と打ち合わせの時間をとり、読み聞かせについて意義や役割を確認し、幼児のことについて知らせる。
- 読み聞かせに使う絵本は、登場人物の気持ちに触れることができるものなど、中学生が幼児の発達段階などを考えて選ぶようにする。
- 家庭に配布するプリント等で、家庭での読み聞かせを促すようにする。

6 展開例（45分程度扱い）

参加的な活動

<目標>

- ◇絵本の楽しさを味わい、中学生に親しみをもってかかわることができる。
 - ◆中学生の気持ちを考えて、読み聞かせに参加したり、気持ちを伝えたりすることができる。
- <社会的共感能力の基礎づくり>

幼児の活動	○教師の支援 ◇◆評価	備考
<p>1 中学生とあいさつを交わす。</p> <div style="border: 1px solid black; background-color: #fff9c4; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・中学生の自己紹介 ・簡単な「手遊び」を一緒に行う。 <p style="text-align: center;">ひげじいさん グーチョコキパー など</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○お互いにあいさつができるよう促す。 ○お互いの緊張をほぐすために、簡単な「手遊び」などを行う。 	
<p>2 読み聞かせを楽しむ。</p> <p>※ 幼児30名、中学生4名の場合</p> <div style="text-align: center;">  </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○中学生や幼児の人数、保育室の広さに応じて環境づくりを行う。 ○中学生が本を選んでくれたことを知らせ、興味を高める。また、どのような聞き方をすればよいか考えさせる。 	<p>絵本 紙芝居 椅子</p>
<p>3 読んでもらった感想を伝え合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○友だちと同じ世界を共有する楽しさを味わえるよう言葉かけを行う。 ○幼児一人一人の受け止め方や、表現を認めながら、感想を引き出すように心がける。また、中学生に幼児の気持ちが伝わるように援助する。 <p>◇読み聞かせを楽しみ、自分の感想を伝えることができる。</p>	
<p>4 中学生と一緒に本を見る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○好きな本を一緒に探す。 ○選んだ本を読んでもらう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○保育者が仲介しながら、互いに楽しく触れ合えるように援助する。 ◆中学生に親しみを持ち、触れ合うことができる。 	
<p>5 中学生を見送る。</p> <div style="border: 1px solid black; background-color: #fff9c4; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなでお礼の言葉を言う。 ・中学生から感想を聞く。 ・中学生を見送る。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○中学生の気持ちに気付かせ、感謝の気持ちを伝えられるようにする。 	

7 活用例

○読み聞かせをする側と、聞く側の学年等を替えて交流する。

＜小学校低学年＞

（例）小学校高学年、中学生などから読み聞かせをしてもらう。

＜小学校高学年＞

（例）中学生、高校生、保護者などから読み聞かせをしてもらう。

＜中学生＞

（例）保育所・幼稚園との交流や、保育実習体験の取組（実践編：事例23）

8 資料

＜絵本貸し出しカード＞

「園と家庭をつなぐ読み聞かせカード」 なまえ（ ）

月 日	借りた本の名前	家庭より (○だけでも結構です)	返却日
(例) 1/15	3びきのやぎのがらがらどん	・親も楽しんで読みました。	1/22
1/22	ねずみのよめいり	・今日は小学校のお姉ちゃんが読んでくれました。	

＜家庭への配布資料＞※イラスト等をつけて活用する。

早寝早起き大作戦
— おやすみ前の親子読み聞かせのすすめ —

8時30分～9時までにはやすみましょう！
睡眠は、しつけのひとつです。「もう寝る時間ですよ」「本を讀んであげるよ」と声をかけましょう！！

2月10日(水)	読んだ絵本の題名	2月11日(木)	
<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
2月12日(金)		2月13日(土)	
<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
2月14日(日)		2月15日(月)	
<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
2月16日(火)		2月17日(水)	
<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>

クラス() 名前()
気づき { }

じぶんのすきなところ

学級活動「希望や目標をもって生きる態度の形成」

1 題材について

複雑で変化の激しい社会において、子どもたちが将来を見通して自立的に生きるためには、自分のよさや個性を生かし、多様な他者と共に、社会や自然・環境とのかかわりの中で、これらと共に生きる自分への自信を持たせることが大切である。そのためには、現在及び将来の生活や学習に適応し、自己を生かそうとする生活態度を育てることが重要となる。

小学校低学年の児童は、想像力、言葉による理解力、認識力が育ち、抽象的な思考もできるようになる。人権教育においても、生活体験に基づく「気づき」から想像力や認識力に訴え、深い理解に導く配慮が必要である。

そこで、本題材では、カード「じぶんのすきなところ」を使い、自分の好きなところに気付かせ、自分や友だちについて発見したこと等を確認させていく。このような活動を通して、個々の個性やよさをお互いに理解し合い、自己肯定感や他者に対する受容性を養う。

2 主な題材のねらい

◇自分の好きなところについて話し合い、自分や友だちの個性やよさを認め合おうとする態度を養う。

◆自分自身のことを肯定的にとらえようとする。 <価値的・態度的側面>

3 指導のポイント

- 教師の話や、ワークシートの質問事項は学級の状況によって工夫し、「自己肯定感」や「多様性に対する受容的態度」を育むことができるよう考慮する。
- 書くことや自己を表現することが得意ではない児童も記入ができるよう項目を工夫したり、個別に話をしたりしておく。
- 考えは違っていても、一人一人が大切にされているという実感が持てる学級の雰囲気づくりに努める。
- グループ編制やシートの活用により、一人一人が活躍できる場を工夫する。
- 自分をふり返る活動を中心にし、道徳の「心のノート」巻頭ページなどに関連させて指導する。

4 学習の概要（1時間取扱い）

※ → 「6 展開例」で示した学習

学習内容	指導上の留意点
<p>事前指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「じぶんのすきなところ」を見つけることを事前に聞き、自分のよさについて考える。 ○日頃から友だちのよさを見つけ、発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> • 保護者に取組の意図や内容等を事前に知らせ、励ましの言葉をかけてもらえるよう依頼する。 • 普段の授業や朝の会・帰りの会等で、友だちのよさを見つけさせ、一人一人の個性やよさを認めようとする雰囲気大切にす。
<p>学習活動 （学級活動）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 教師の話聞く。 2 自分のすきなところを見つける。 3 発表を行い、自分や友だちのよいところを発見する。 	<ul style="list-style-type: none"> • 一人一人の発表を聞き、その思いに共感させる。 • グループで自分のよいところを出し合い、認め合えるようにする。
<p>事後指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ○おうちの方へ「じぶんのすきなところ」カードを渡し、コメントを書いてもらう。 ○「心のノート」（枠内参照）に記入する。 （道徳） <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>1, 2年（8・9ページ）「あまのこをおしえてね」 3, 4年（6・7ページ）「そと自分に聞いてみよう」</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○「じぶんのすきなところ」を「じんけんコーナー」に掲示する。 	<ul style="list-style-type: none"> • 学級通信で取組を紹介し、本人が自信を持てるよう協力を依頼する。 • 学級通信等でカードの内容を紹介をする際は、本人や保護者の了解を得る。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>※授業参観等で、保護者もいっしょに学習する取組も考えられる。 ※発展・継続的に「いっしょでも、ちがっていてもいいよ」（→資料参照）に取り組むこともできる。</p> </div>

5 準備

- 全員が答えられるよう実態に合わせたシート項目の作成を行う。
- 全員が発表できるようなグループの編成を行う。
- 学級通信等で保護者へ取組を紹介し、児童へのコメントを書いてもらうよう協力依頼を行う。
- 学習後にシートを掲示できるようなコーナーを用意する。
- 道徳「こころのノート」

6 展開例（1時間取扱い）

参加的な学習

<目標>

◇自分に自信を持ち、自己を生かして生活しようとする事ができる。

◆自己を肯定的にとらえようとする。

<価値的・態度的側面>

主な学習活動	○教師の支援 ◇◆評価	備考
<p>1 教師の話聞く。</p>	<p>○「自分や友だちを大切に、自信をもって生活するため」という授業の目的について話す。 ○教師自身について、シートの項目から1つを選んで話をする。</p>	
<p>教師の話（例） 「先生は、小さいころからお絵かきが好きで、一人でよく絵をかいていました。あるとき、友だちにかいてあげたらとても喜んでくれて、『ありがとう。』といわれました。そのときから、自分が少し好きになりました。」</p>		
<p>2 本時のめあてをつかむ。</p>		
<p>じぶんのすきなところを見つけよう。</p>		
<p>3 記入の仕方を聞き、シートに記入する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>①じぶんのすきなところを選ぶ。 （いくつでもよい） ②1つまたは2つについて、理由をくわしく書く。</p> </div>	<p>○選択項目は児童の実態に合わせて設定し、選べない子がいないよう配慮する。 ○理由を書くことが進まない子には教師がよさを伝えたり、帰りの会で言ってもらったことを思い出させたりする。</p>	<p>ワークシート</p>
<p>4 各質問項目ごとに、記入した内容について発表する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>（きき方のルール） ○発表する人を見る。 ○最後までちゃんと聞く。 ○うなずきながら聞く。</p> </div>	<p>○グループを作り、グループ内で発表させる。 ○発表を聞くときのルールを確認する。 ◆互いの意見を聞き、認めることができる。</p>	<p>聞き方のルール</p>
<p>5 自分自身について考えたことや、友だちの発表を聞いた感想を出し合う。</p>	<p>◇自分の好きなところから自信を持って自己を生かそうとしている。</p>	

7 活用例

<小学校高学年>

- (例) 学級における協力的な人間関係づくりと自主的なルールづくりの取組
(実践編：事例21)
- (例) 自分の特徴を知って、悪いところを改め、よいところを積極的に伸ばす。
(道徳1－(6))

<中学校>

- (例) 自分を見つめ、自分の夢について調べ、発表する取組
(実践編：事例20)

8 資料

<参考資料>

- ・「子供の自尊感情や自己肯定感を高める教育」の研究について
(東京都教育委員会)
- ・「平成17年度人権教育推進資料 豊かな人権感覚を育むために」
(熊本県教育委員会)

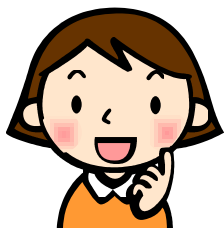
<発展・継続題材> 「いっしょでも、ちがっていてもいいよ」

<目標>

- ◇自分の考えを大切にし、自分と違う考えを受けとめることができる。
- ◆あるがままの自分を認め、自分らしく行動しようとする。<価値的・態度的側面>

主な学習活動	○教師の支援 ◇◆評価等	備考
1 教師の話を聞く。 (例)「先生は、小さいころからお絵かきが好きで、それがほめられるのがとてもうれしくて、友だちにもかいてあげていました。今も大好きです。」		
2 本時のめあてをつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">自分や友だちの考えを大切にしよう。</div>		
3 「いっしょでもちがっていてもいいよ」を行う。 「今から先生が問題を出しますので、①ハイ②どちらかといえばハイ③どちらかといえばイエ④イエの中で一番近い考えのところへ移動してください。」		
第1問「私は走るのが好き」 第2問「イチゴが好き」 第3問「なわとびは楽しい」 第4問「〇〇小学校が好き」 第5問「自分のことが好き」 第6問「家族のことが好き」 第7問「このクラスにはいいところがある」 等々	○相談せず自分の考えで動くよう促す。 ○正しい答えがあるわけではないことを理解させる。 ○選んだ場所ごとに、選んだ理由を発表する。 ○全体でそれぞれの意見を交換させる。	教室の四隅に、①～④のカードを貼る。
4 感想を出し合う。	○一人一人考えが違っててもよいこと、自信を持って意見を言うことが大切であることを伝える。	
5 まとめ		

<ワークシート> ※項目の数や内容は、児童の実態に応じて決定する。



じぶんのすきなところ
なまえ



このなかから、まるをつけてください。いくつでもいいですよ

げんきいっぱい	ものしずか	おちついている
やさしい	たよりになる	ニコニコ
おもいやりがある	おもしろい	がまんづよい
ひとのきもちをかんがえられる	しんせつ	まじめ
そとであそぶのがすき	おえかきがすき	きれいずき
だれとでもはなせる	じぶんのかんがえがいえる	ちからもち
いきものをたいせつにする	すぐになかよくなれる	そうじをがんばる
※ほかに、すきなところをかいてみましょう		

どんなところが そうなのか くわしく おしえてね。

【おうちの方へ】 お子さんが書いた文章を読んで、お子さんのいいところを書いてください。

特別支援学校の友だちと仲よくなろう

総合的な学習の時間

1 題材について

学校における人権教育の取組の一環として、異なる校種の学校との交流学習を推進し、異年齢の子どもが共に活動する機会を整備していくことは、互いを思いやる感受性や社会性を伸ばすことにつながり、人権尊重の精神を育てる上で意義深いことである。

障がいの有無にかかわらず、誰もが互いに人格と個性を尊重し合える共生社会の実現のためには、互いに理解し合うことが不可欠である。障がいのある子どもと、幼稚園、小学校、中学校、高等学校等の子どもたちが共に活動することは、双方の子どもの社会性や人間性を育成する上で重要な役割を果たしており、このような機会を積極的に設けることが重要である。

本題材では、特別支援学校の児童と一緒に活動したり、児童のことや家族の思いについて特別支援学校の教師から話を聞いたりしながら、一人一人が大切な存在であることに気付き、相手のことを深く理解し、共に助け合い、支え合って生きていこうとする態度を養う。

2 主な題材のねらい

◇特別支援学校の友だちとの交流を深めるために協力して活動に取り組み、お互いのことを理解し、尊重し合う態度を養う。

◆自分や他の人たちを大切な存在として、尊重しようとする。

<価値的・態度的側面>

3 指導のポイント

○事前に、両校の担当で活動内容や計画等を共同で検討し、それぞれの学校で交流の意義や内容について共通理解を図っておく。また、交流体験の前後には、双方が協力して事前指導、事後指導を行う。

○導入には車椅子を操作する体験などを行い、感想や意見を出し合う中で、人権が尊重される環境についての関心を高める。

○交流の前に、それぞれの学校で自己紹介カード（写真入り）を作成し、交流相手をあらかじめ知っておくことで、交流をスムーズに行えるようにする。

○楽しく有意義な交流となるよう、自分たちで計画を立て、活動の方法を工夫し、役割分担など協力して活動に取り組めるよう支援する。

○特別支援学校の児童に対する家族や周囲の思いに触れることにより、一人一人がかげがえのない存在であることを実感できるようにする。

4 学習の概要（11時間取扱い）

※ → 「6 展開例」で示した学習

学習内容	指導上の留意点
<p>1 車イスに乗ってみよう。（2時間）</p> <p>○車椅子を見かける場所や車椅子を利用している人のことを発表する。</p> <p>○車椅子や装具の使用方法を学ぶ。</p> <p>○車椅子に乗ったり、装具を付けたりする体験を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 車椅子や装具が大切な役割を果たしていることに気付かせる。 • すべての場所が使いやすい環境になっているか、車椅子等を利用する人の視点から見つめ直すようにする。
<p>2 特別支援学校の友だちと仲よくなるう。（1時間）</p> <p>○ゲストティーチャー（特別支援学校の教師）から、特別支援学校のことや、そこに通う友だちのことについて話を聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 特別支援学校の教師から、子どもたちの様子、教師や保護者の思いなどを聞き、一人一人が大切な存在であることを感じとれるようにする。 • 自己紹介カードを使って、特別支援学校の友だちを紹介する。
<p>3 特別支援学校の友だちに会いに行こう。（3時間）</p> <p>○一緒に校内オリエンテーリングをする。</p> <p>○小学校からの出し物（紙芝居や演奏等）で交流する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 両校の児童がコミュニケーションを図れるよう、活動内容や場づくりを工夫する。 • 質問や伝えたいことなどを用意し、積極的に声かけられるようにする。 • お互いが楽しめる出し物を考え、協力して活動できるよう支援する。
<p>4 特別支援学校の友だちを小学校に招待しよう。（4時間）</p> <p>○交流計画を立て、交流会やゲーム大会の準備をし、交流会（ゲーム大会）を実施する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • お互いが楽しめる交流活動を主体的に計画できるよう支援する。また、これまでの学習を想起させ、安全面に気を付けた活動ができるよう助言する。 • 事故防止に努め、活動が特別支援学校の子どもの身体的、精神的な負担にならないよう留意する。
<p>5 学習を振り返ろう。（1時間）</p> <p>○特別支援学校の友だちや先生方にお礼の手紙を書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 交流を通して学んだことを大切に、継続した交流が行えるようにする。

5 準備

- 特別支援学校と連携し、年間を通じた交流となるよう計画を作成するとともに、学校全体としての取組となるよう校内で共通理解を図る。
- 車椅子等の準備
- 自己紹介カードの作成（個人情報については十分に配慮する）
- ゲーム大会に必要なものの準備（例：釣り大会、輪投げ、風船バレー等）
- 学習シート

6 展開例（3時間取扱い）

体験的な学習

＜目標＞

◇特別支援学校の友だちと仲よくなるために、協力して交流活動を進めていくことができる。

◆交流を通して、お互いを尊重し合い、相手のことを理解しようとする。

＜価値的・態度的側面＞

主な学習活動	○教師の支援 ◇◆評価	備考
<p>1 交流会の始まりの会をする。</p> <div data-bbox="204 577 657 873" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>担当：特別支援学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はじめのことば ・歓迎のことば ・本校代表あいさつ ・グループ分けと自己紹介 ・説明（先生） </div>	<p>○活動の流れが見通せるようにし、両校の子どもたちが主体的に活動できるようにする。</p> <p>○自己紹介カードを活用して、互いのことを知り合えるようにするとともに、聞きたいことや伝えたいこと等を用意しておくようにする。</p> <p>○守らなくてはいけない約束事などについて教師から説明を行う。</p>	<p>グループ編成</p> <p>自己紹介カード</p>
<p>2 校内オリエンテーリングをする。</p> <div data-bbox="210 981 663 1205" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>担当：特別支援学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループに分かれ、特別支援学校の友だちと一緒に校内をまわる。 </div>	<p>○特別支援学校の友だちと一緒に校内をめぐる、グループごとに交流を深めることができるようにする。</p> <p>○クイズなどを用意し、特別支援学校における一人一人を大切に工夫等に気付くようにする。</p>	
<p>3 交流活動を行う。</p>	<p>○簡単なゲームなどを行い、交流の範囲が広がるよう支援する。</p> <p>◆進んで交流活動に参加し、相手のことを理解しようとする。</p>	
<p>4 交流会の終わりの会をする。</p> <div data-bbox="204 1505 657 1998" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>担当：本校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はじめのことば ・本校からの出し物 <div data-bbox="274 1653 587 1751" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>紙芝居や演奏等 プレゼント渡し</p> </div> ・感想発表 <div data-bbox="274 1796 587 1895" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>特別支援学校から 本校から</p> </div> ・先生方から ・おわりのことば </div>	<p>○感想感想では、交流して楽しかったことや初めて知ったことなどを伝えるよう支援する。</p> <p>○教師の話では、交流の様子や子どもたちの感想などを取り上げ、互いを尊重し認め合おうとする態度や、継続した交流を行おうとする意欲を高めていくようにする。</p> <p>◇友だちと協力して、交流を深める活動に取り組むことができる。</p>	<p>紙芝居 リコーダー</p>

7 活用例

<小学校低学年>

(例) 生活科における「おもちゃまつり」等に特別支援学校の子どもたちを招待する。

<小学校高学年>

(例) 特別支援学校の運動会や文化祭に参加する。

(例) 特別支援学校の子どもたちを運動会に招待し、交流を図る。

<中学校、高等学校>

(例) 委員会活動やボランティアサークルなどによる定期的な訪問。

8 資料

<参考資料>

「特別支援教育：10 交流及び共同学習」(文部科学省ホームページ)

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/010/001/002.htm

<自己紹介カード>

(児童の顔写真)
(名前)
(好きな食べ物)
(好きな勉強)
(好きなあそび)
(メッセージ)

<「学習内容4 特別支援学校の友だちを小学校に招待しよう」の様子>



<学習シート> ※学習内容4 「特別支援学校の友だちを小学校に招待しよう」

(ゲームの名前)
(グループの名前)
(グループのメンバー)
(準備物)
(ゲームのしかた) ③ ② ③
(はいち図)
(感想)